

会 議 録

会議名 (付属機関等名)		第1回 川西中央北エコまち協議会	
事務局(担当課)		中央北整備部 中央北推進室 地区整備課	
開催日時		平成24年8月10日(金) 10時00分 ~ 12時00分	
開催場所		川西市役所 4階庁議室	
出席者	委員	加藤、山中、牧田、安田、中根、有田、秋山、山本、松塚、井上、畑中、石田、井上(功)、西田、畠中、酒本、枅川、松下	
	その他	玉野、田口(近畿経済産業局)	
	事務局	林谷(地区整備課) 山本、三浦、中川、橋本(コンサルタント)	
傍聴の可否		可	傍聴者数 3人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第		1 開会 2 開会あいさつ 3 出席者紹介 4 中央北地区のこれまでの検討経過 資料1 5 議事 低炭素まちづくり計画について 資料2 資料3 ・計画、ガイドラインの対象範囲 ・対象分野(都市機能の集約化、交通、建築物、緑・エネルギーの面的管理・利用) ・今年度の全体スケジュールおよび議論の枠組みについて 川西市のまちづくりの将来像および各分野の論点 資料4 ・都市機能の集約化 ・交通 ・建築物 ・緑・エネルギーの面的管理・利用 都市の低炭素化に関する法律への提案 中央北地区におけるエネルギーに関する検討経過の報告 資料5-1、2 6 閉会あいさつ 7 閉会	
会議結果		別紙審議経過のとおり	

審議経過

1. 開会

事務局（川西市）

- ・川西中央北エコまち会議設置要綱、会議公開運用要綱、傍聴要領について説明

2. 開会あいさつ

（中央北整備部中央北推進室 酒本室長あいさつ）

この川西中央北エコまち協議会の位置づけについて説明させていただきたい。中央北地区開発は、平成23年度から土地区画整理事業としてスタートしている。同年6月の「まちづくり方針」には、次世代型複合都市の実現ということで民間活力導入と低炭素まちづくり実現を掲げている。

具体的には、昨年度「中央北まちづくり指針」をつくり、民間の指導内容を検討している。また、低炭素社会をどう実現していくのかについては、経済産業省の補助金を活用し、民間設置ではあったが「川西中央北エコまち研究会」をつくって検討した。その際、エネルギーの面的融通について一定の結論を得ている。それを受け、今年度は、具体的にこの地区で何が出来るのか検討し、中央北地区のみを対象にエコまちガイドラインを策定し、PFI事業に反映していこうと当初考えていたが、本年2月28日に都市の低炭素化に関する新しい法律が閣議決定をされたことを受け、川西市全体の低炭素まちづくり計画も視野に入れることとなった。

国が考える低炭素まちづくりの中身は、医療機関の誘致など集約型都市をイメージした内容で、中央北地区がやろうとしていることと似ている。現時点で法律は成立していないが、国の基本方針によると、低炭素まちづくり計画は市町村が作ることになっているので、この際、低炭素まちづくり計画とエコまちガイドラインとを一緒につくってはどうかと考えた。

本協議会の目的は低炭素まちづくり計画をつくることである。要素としては、都市の集約化、建築物の低炭素化、公共交通、エネルギーについて議論を進め、重点地区として中央北地区を位置づけて、重点地区を対象にエコまちガイドラインをまとめ、PFI事業に反映していくということを考えている。

それぞれの分野については、先生方にお願ひし、エネルギー関係については大阪ガス様、関西電力様に具体的な提案をいただき議論を進めていく予定である。

3. 委員紹介

4. 中央北地区のこれまでの検討経過

事務局（川西市）

- ・資料説明（資料1）

5. 議事

委員

- ・ご指名ということで会長を勤めさせていただきます。資料の説明をお願いいたします。

事務局

- ・資料説明（資料 2、3）

会 長

- ・分かりにくい点、聞きたい点があればご意見をお願いいたします。
- ・資料 3 の今年度のスケジュールで、低炭素まちづくり計画作成から川西中央北エコまち協議会へ矢印はあるが、協議会から計画作成に矢印がない。主に報告のみを協議会へ行う位置づけで、協議会議論は計画作成へ反映しないのか。

事務局

- ・資料の不備で、申し訳ない。議論いただいたことを計画作成へ、随時反映して行く予定であり、矢印は双方向である。

委 員

- ・検討分野について、防災の視点も検討ということであるが、それ以降の資料では防災という項目はない。防災の視点は大変重要であると思う。どういう項目で検討していくのか。建築も再生可能エネルギーも関係すると思うが、一分野として防災も取り上げてはどうか。

会 長

- ・骨子案に項目を設けるということで、ご意見いただいた。事務局いかがか。

委 員

- ・防災の視点は、主に中央北地区の防災機能を備えた公園として中央公園があり、またせせらぎ公園をはさみ体育館もあるので、中央北地区のエネルギーを考える上で、防災の視点を前面に出して考えてはどうかと考えている。
- ・しかし、市域全体となると重要な視点ではあるが、そこに捉われると、議論が拡散するため項目出しはせず、重点地区のエネルギーの分野で議論出来ればと考えている。

会 長

- ・再生可能エネルギーを軸に考えた防災像を考えているということか。

委 員

- ・中央北公園は 2ha あり、防災機能を備えた公園ということ想定している。緊急避難時にエネルギーどうしていくのか、視点として持っている。

会 長

- ・まとめ方として、防災はその中に従属的に入ってくるとれば良いという現在の状況であるが、議論が進む中で、分野として挙げた方が良いということがあれば取り上げる必要が出てくるかもしれないので、検討課題にさせていただきたいと思う。

会 長

- ・ それでは、次の川西市のまちづくりの将来像および各分野の論点移ります。

事務局

- ・ 資料説明（資料4、資料4 - 1、別紙資料4 - 1）

会 長

- ・ ただいま、まちづくりの将来像を考える上で背景的な状況と、現実的なコンパクトシティ、集約型都市構造に向けて説明を受けました。ご質問等ございましたら、お願いいたします。
- ・ 小学校区ごとの人口推計のグラフを見ると、すごい結果となっている。78%減、128%増など地区によって差異が大きい。増加のところは封鎖型での結果を入れているがどういうことか。考え方を説明いただきたい。

事務局

- ・ 2005年～2010年の推移をもとに推計を行っている。趨勢型は転入・転出があった場合、封鎖型は転入・転出が行われなかった場合の推計となっている。増加が大ききなところでは、2005～2010年の増加が大きかったことが影響し大きい伸びとなっているが、開発の余地の関係等からここまで伸びないと考えられるため、封鎖型の状況について参考として記載している。

会 長

- ・ 緑色の方がありうる可能性が高いという見方でよいか。

事務局

そうである。

会 長

- ・ 環境モデル都市から低炭素まちづくりについて色々な動きが起こっている状況の中で、仮説的に人口減少、人口集約を念頭において議論を進めてはどうかという視点である。

副会長

- ・ ご説明いただいた話は、低炭素まちづくり計画に向けて理解できるが、低炭素という観点から見た場合、全てが同じ比重ではないのだろう。交通、住宅の低炭素化はそれぞれ重要なことではあるが、それぞれが定量的に割合を占めていて、どれくらい低炭素化がはかれるのかを見ることが出来ると良いと思う。
- ・ 交通分野における低炭素化の課題として、利便性、高齢化社会の対応以外であれば、車両の低炭素化のみである。それだけで解決するのだろうか。低炭素だけで判断してはいけないということで、色々な要素が入ってきて、判断が一元的に出来なくなっているというのは分かるが、エコまちという以上低炭素化部分については、定量的な評価が必要ではないかと思う。今後、どのように検討を進めていけば良いかということをも議論できればと思う。

会 長

- ・二酸化炭素排出量の削減量についても定量的に議論出来ると良いというご指摘かと思う。一定の算出方式はあり、計算することは可能か。

事務局

- ・可能である。ただし、それぞれどのようなパラメーターを設定するかは議論のあるところかと思う。

委 員

- ・交通、建築、エネルギーの視点があり、定量的な目標値があれば良いということかと思う。
- ・例えば、川西市は自家用車の分担率が高いため、10年後の自家用車の削減量の割合や、性能の向上を加味して目標を設けようという理解でよいのかと思う。
- ・建築物については、民間の建築物も重要であるが、公共の建築物について、総量、更新年度、どれくらいの目標で目指せばよいかという整理が必要かと思っているが、そういう解釈でよいか。

会 長

- ・市域全域を対象とした場合と中央北地区のみの場合では、作業量が違っだろう。全体でやると、より推計という意味合いが強くなる。

副会長

- ・例えば、将来予測として電気自動車の時代になってくることが考えられ、蓄電池を住宅で利用していくということが一般的になってくるだろう。そうなる自動車は低炭素化だけでなく、住宅との兼ね合い、進歩の予測も検討する必要があるのではないか。
- ・市域全体が難しければ、地区を重点的に検討できればと思う。

会 長

- ・エネルギー問題、要素技術の問題と制度やライフスタイルの問題と総合的にどちらも議論が必要というご指摘かと思う。

委 員

- ・小学校区別の人口推計をみると、南北で地域差はあるが、今回の重点地域である中央北地区が含まれる学区をひとつのエリアとしてクローズアップし、将来どうなっていくのかということを考えてはどうかと思う。

会 長

- ・関連する小学校区を絡めて将来像を深めてはというご指摘である。

委 員

- ・議論が分かりやすくよいかと思う。

委員

- ・人口推計について、2005 から 2010 年の至近 5 ヶ年の傾向だけで 2050 年の長期推計をするのは無理があるのではないかと。また今後再開発される中央北地区は、現在は更地で人が住んでおらず、至近の傾向だけでは再開発後の姿を想定できない。そのあたりも考慮する必要があると思う。
- ・都市機能の集約化により流入人口があるということだが、国の総人口が減るなかで、どこから流入してくるのか疑問である。川西市内の他地域から都市機能を集約化した区域に移転してくるという方が現実的かと思う。
- ・2050 年という近未来に起きる技術革新や社会制度改革は読めないが、人口は比較的想定しやすいと思うので、非現実的な数字が出てしまうのはどうかと思う。

事務局

- ・中央北地区の人口についてはご指摘の通り、考慮したいと思う。
- ・5 年間の推移を推計に利用した点について、出生率等の関係もあり何年間の期間をとり推計をするかは算出する際に事務局でも議論したところであるが、資料の見方として、市域全域で 38%減少というのは非現実的な数字ではないかと思う。一方、校区の小さいスケールでの現実的な将来予測というのは難しいところであるが、こちらは参考値として見ていただければと思う。いずれにせよ、ご指摘を踏まえ、引き続き検討を行う。

会長

- ・人口推計については微妙な問題であるが、間違いなく言えるのは減少することであり、流出をいかに抑えるのかということだと思う。そのようなシナリオで低炭素まちづくり計画を議論することとなる。

委員

- ・川西市の郊外団地では、人口が減少し「オールドニュータウン化」が進むことは不可避になっている。中央北地区は、低炭素化により、まちの付加価値を上げて人口の流出を防ぐためのモデルエリアとして「川西の顔」にならないといけない。
- ・中央北地区で低炭素化を推進すること以上に重要なのは、このまちづくりが市民に与えるメッセージ性と考える。市全域にどのように良い影響を与えていくのかということも協議会の議論の一つかと思う。

会長

- ・シンボリックにしていくというのは筋書きだと思うが、技術的にはびっくりするようなことは出てこないという指摘だったかと思う。
- ・しかし、コミュニティがどれだけエネルギーを生み出せるかというのはシンボリックなミッションになりつつあるのではないかと思う。

副会長

- ・情報発信は重要なテーマで、啓発的なセンターをつくるということではなく、まち全体としての取組みが見えるように表現していくことは重要である。例えば、低炭素の先進地というまちに見

学に行っても、まち並みは普通のまちと変わらず、機械室にいったら説明があるということが多い。設備は外に見えてこないで、その中で建物が持っている意匠的な役割が大きい。まち全体として表現していくということが重要なことではないかと思う。

会 長

- ・都市の低炭素化に関する法律への提案についてご説明いただければと思う。

事務局

- ・現在、国でも議論をしており、地域からこのような支援・規制緩和等があれば低炭素化が進むということがあれば提案して欲しいということがあり議題として設定させていただいた。

委 員

- ・新しい法律が出来ることを前提に、国が基本方針をつくることとなっている。国も現場に使ってもらえるものにしたいが現場のことが分からないのが現状である。川西市がゼロから計画づくりをしていくということを報告させていただいた際、その経過をぜひ教えていただきたいと言われている。今後、個別の相談や次回の協議会等で、この部分がネックになっているのでこういう支援・規制緩和等があればありがたいということがあれば、国交省に伝えていきたいと考えている。

会 長

- ・特区的なことを考えているのか。

委 員

- ・そこまでは考えていない。

オブザーバー

- ・イノベーション特区ということで京阪神でも取り組んでいる。経済産業省の視点では、電気事業法などの規制緩和等があれば特区に反映させていただきたいと思う。

会 長

- ・隣の街区に電力が供給できれば良いというのが一つ大きなことかと思う。2丁目、3丁目で電力融通が出来ればいいねということも含めて提案をしてくれということである。
- ・中央北地区におけるエネルギーに関する検討経過の報告についてお願いいたします。

資料説明

- ・大阪ガス(株)、関西電力(株)から説明(資料 5-1.5-2)

会 長

- ・ただいま、検討経過について説明があったがこれについては市として宿題を出されたのか。

委員

- ・昨年度の研究会で、誘致する医療施設が中央公園予定地に残置している旧火打前処理場の貯留層を活用し、周辺の公共施設へのエネルギー融通が考えられるのではないかという提案があったので具体的にご検討いただいた。現実には、規模なども含めて常時、面的に融通するのは難しいという印象を受けている。
- ・防災時の視点を入れて、融通を考えることができないかと考えている。

副会長

- ・この会議で、エネルギー面についてどこまで精査する必要があるのかというのが分かっていない。
- ・PFIアドバイザー業務で熱融通可能性検討とあるが、これは既にされているのか。エコまちガイドラインの中で、融通を検討することという文言が入ったとしても、どのような融通の方法をとるかまでは入らないだろう。

委員

- ・具体的なご提案をいただいて、何をPFI事業者に要求していくのか、ガイドラインにどう記載していくのかを検討していきたいと考えている。

副会長

- ・ご提案に対して、専門的な精査をしていくのはどうされる予定か。

委員

- ・昨年度、大阪大学の下田先生にお願いしていた。具体的に検討していくということで、エネルギー会社の方にご提案いただき、適宜、先生にはご指導いただきながらと考えている。

副会長

- ・エコまち研究会の意見について今後の協議会の中でご紹介いただければと思う。

会長

- ・今後の進め方について貴重なご意見をいただいた。全体を通して、何かございましたらご意見いただければと思う。
- ・これで議事を終了し、事務局に進行を返します。

6. 閉会あいさつ

(川西市 大塩市長あいさつ)

第1回エコまち協議会を開催いただきありがとうございます。これからまた皆様方にお世話になると思いますが、よろしく願いいたします。

協議会の取り組みについては、昨年度研究会の立ち上げを行い、さらに発展させていこうという思いで取り組んでいきたいと考えている。昨年度は、経済産業省にもお世話になり、今年度は国土交通省にもメニューがあるということで低炭素まちづくりについて研究をし、ご意見をいただき、国の力も借りていこうという思いである。その旨、国方にもお伝えしている。予断であるが、経済産業省へうかがった際に川西出身者の方にたまたまお会いした。

国交省の担当の方ともお話をさせていただいたが、事務局からも連絡が入っており、力強い思いである。加藤都市局長にもお願いにあがったが、足元がしっかりしていれば大丈夫ということで力強いお言葉をいただいた。

事業については、PFI事業の中に、低炭素をどう取り組んでいくかということを議論していただけたらと思っている。本格的な議論がはじまったところである。川西市にとって長い懸案地区であったが、どのように活用していくのかということのスタート地点に立てた。出来るだけ、スピードを速めて進めていきたい。これからもご意見を賜りますことをよろしく願いいたします。

7. 閉会

会長

- ・今回の会議については公開ということであったが、川西中央北地区については周囲からも関心が高く、今後、資料や会議録の公開方法についても配慮していただきたい。

事務局

- ・次回の日程については、10月ごろを考えています。
- これにて、閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。